

JR古賀駅東口 周辺地区整備計画

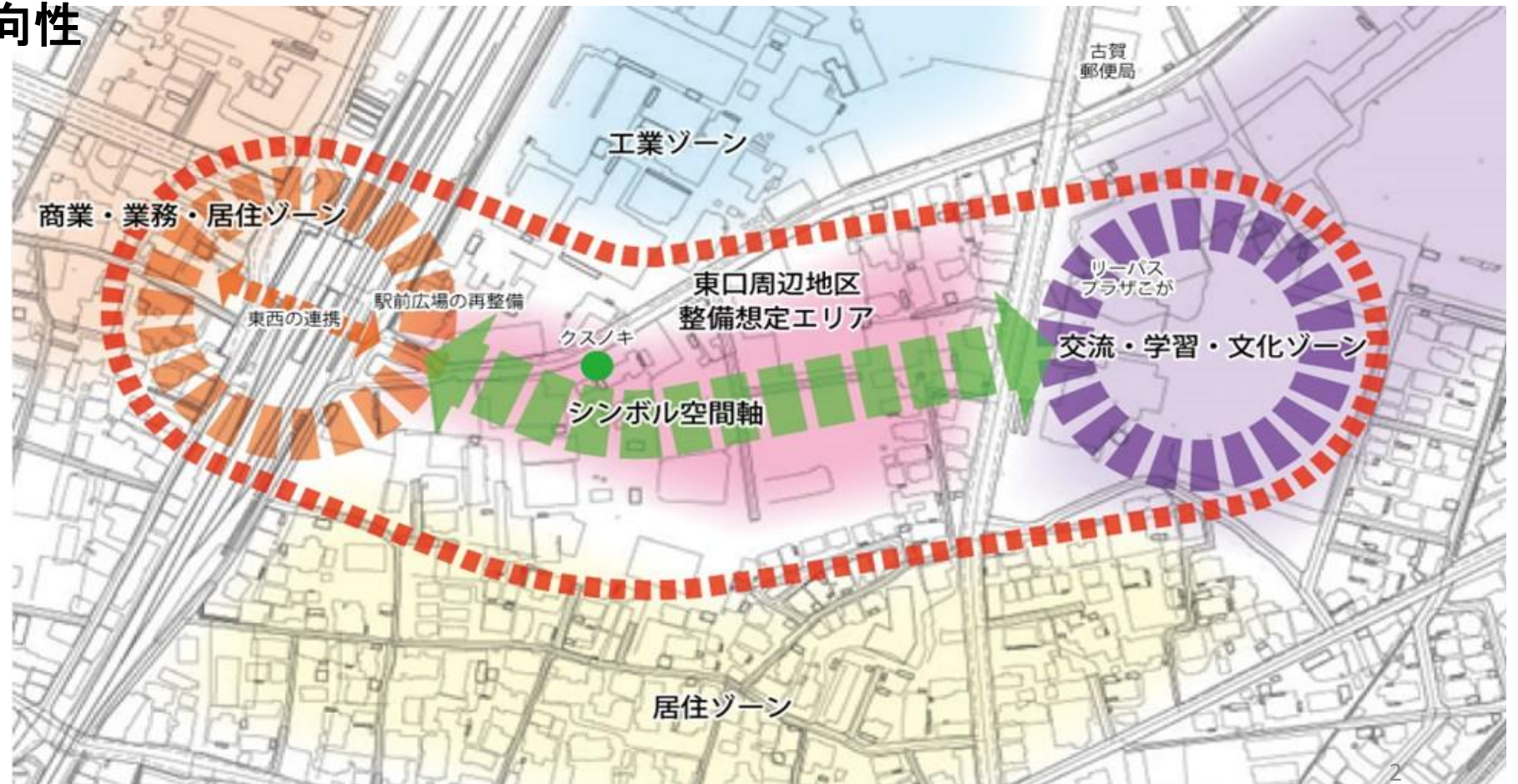
令和4年1月30日
会派 友和

まちづくりコンセプト

歩きたくなる 暮らしたくなる 居心地の良い まちづくり

土地利用・導入機能の方向性

駅とリーパ
スプラザを
東西に結
ぶシンボ
ル空間軸
を中心に、
機能の導
入を検討
します。



古賀駅周辺の現状と課題

古賀市の顔づくりが必要

○駅舎の老朽化(平成元年築)や、屋外駐輪場、未整備の駅前広場などを改善し、高質な都市景観の創出による玄関口としての顔づくりが求められる。



①魅力に欠ける駅前空間(東口)



②景観的配慮の無い屋外駐輪場(東口)

駅前広場の機能強化が必要

○東西の駅前広場は、西口と東口の役割分担を整理するとともに、交通結節点としての機能強化、滞留空間の高質化、歩行者動線の確保などが求められる。



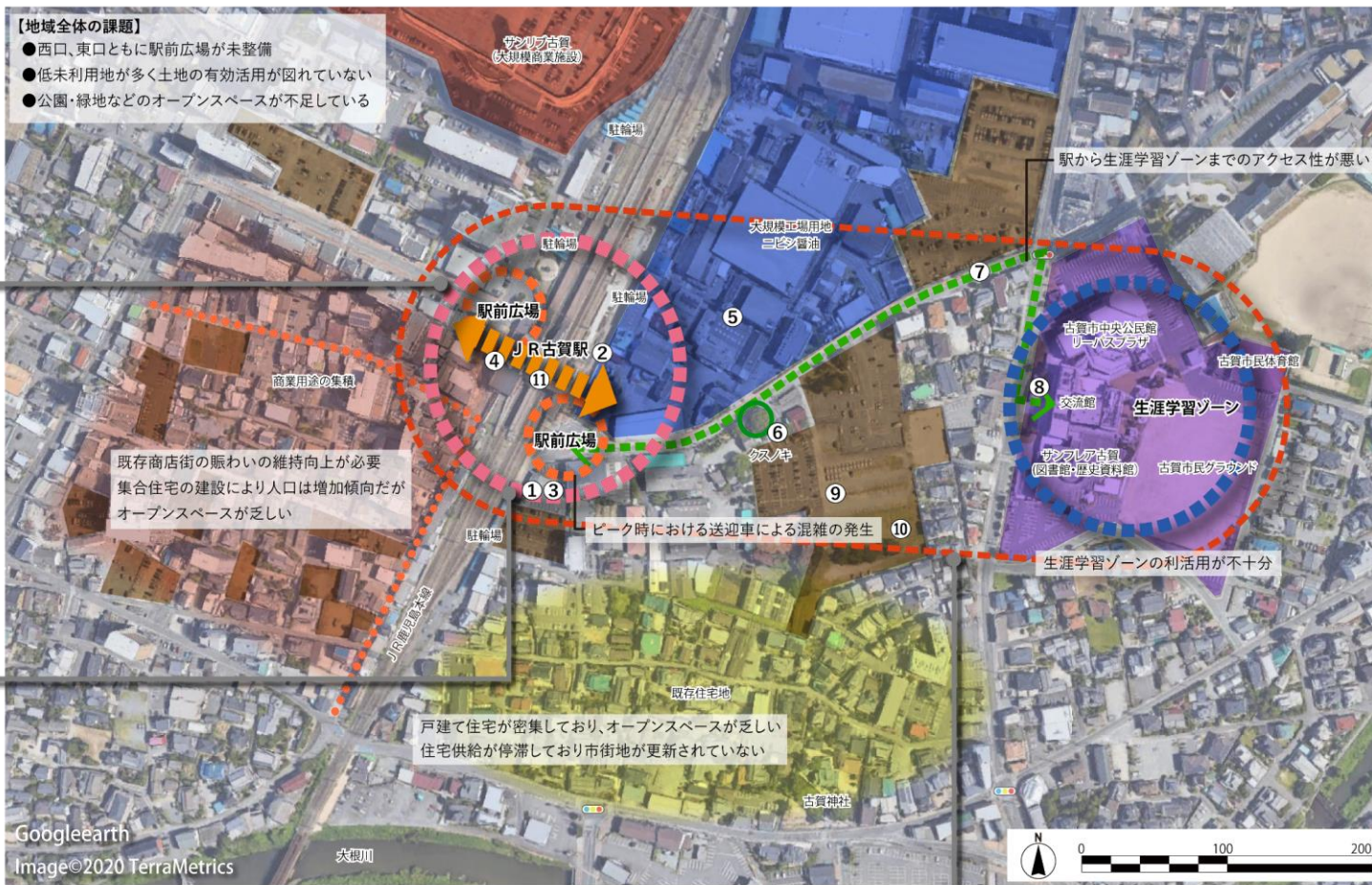
③混雑する駅前広場(東口)



④歩行者動線とタクシー動線の交錯(西口)

【地域全体の課題】

- 西口、東口ともに駅前広場が未整備
- 低未利用地が多く土地の有効活用が図れていない
- 公園・緑地などのオープンスペースが不足している



既存商店街の賑わいの維持向上が必要
集合住宅の建設により人口は増加傾向だが
オープンスペースが乏しい

ピーク時における送迎車による混雑の発生

生涯学習ゾーンの活用が不十分

戸建て住宅が密集しており、オープンスペースが乏しい
住宅供給が停滞しており市街地が更新されていない

既存ストック(地域資源)を活かした個性あるまちづくりの展開が必要

○古賀駅に隣接する大規模工場、既存の商店街、鉄道駅、生涯学習ゾーンの公共施設の集積、大クスノキや大根川の自然環境など既存のストックを固有の地域資源の一つとして捉え、まちの個性を高めるために積極的に活用していく必要がある。



⑤創業100年を超えるニヒン醤油



⑥大クスノキ

駅と生涯学習ゾーンを繋げるアクセス改善が必要

○駅と生涯学習ゾーンを結ぶエリアは現在アクセス性が悪く、生涯学習ゾーンの利活用の促進などを考えると、社会基盤整備等により繋げることでアクセスを改善する必要がある。



⑦駅と生涯学習ゾーンのアクセス道路



⑧生涯学習ゾーン(交流館)

土地の有効活用による賑わい創出が必要

○地区全体に低未利用地が多く、機能集積が図られていない。低未利用地の活用や土地の高度利用による賑わい創出が求められる。



⑨大規模な平面駐車場



西口と東口の市街地の比較

滞留できるオープンスペースが必要

○西口、東口ともに公園が少なく、子どもから高齢者まで多様な世代が遊んだり、休憩できる空間がない。
○滞留空間も乏しく魅力的なオープンスペースが求められる。



⑩未利用地は多いが公園は少ない

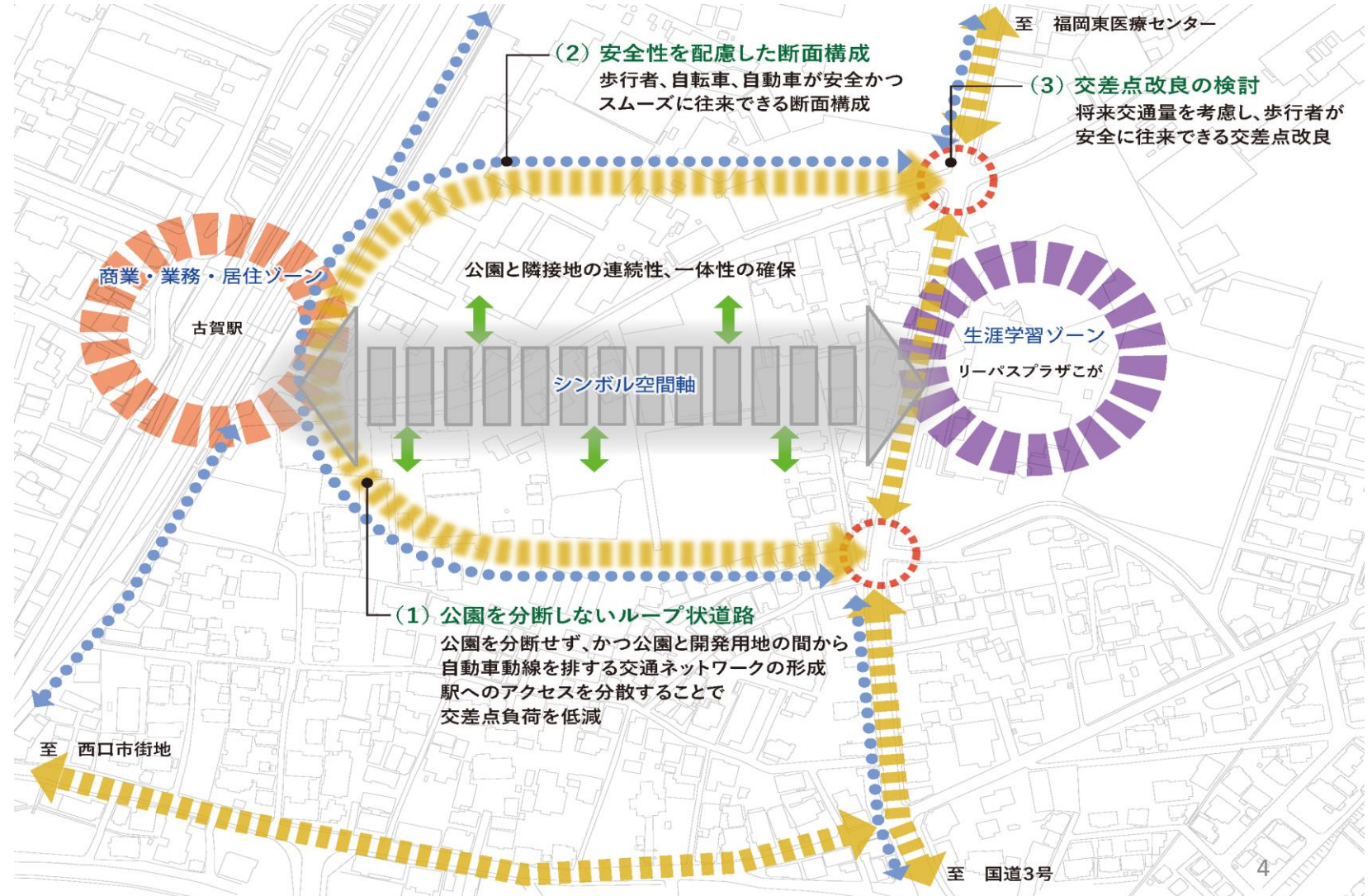


⑪滞留空間のない自由通路

整備基本方針

公園による都市軸を生かす交通ネットワークの形成

- ・道路等による公園の分断をできるだけ減らし、自動車動線と交錯しないよう公園の連続性を保ちます。
- ・公園と宅地の間に自動車交通網を設けず、**公園と宅地の一体的な空間形成**につなげます。
- ・各方面からのアクセスに配慮したネットワークとします。
- ・段階的な整備プロセスにおいても円滑な交通網を形成します。
- ・通勤通学時の歩行者交通の集中に対応するために、**古賀郵便局前交差点の改良**を検討します。



整備基本計画

公園

場所の特性に応じたゾーニング

東西に長い特性を考慮し、単調な印象の空間とならないように、**隣接地や周辺の市街地特性に応じたゾーニングを行います**。また、ゾーニングごとに主な利用者や、発生するアクティビティを想定し、多様な利活用を可能とする電気、給排水等の設備をあらかじめ設けるほか、植栽、舗装等に変化をつけることで、非日常の賑わいの場から日常の憩いの場を演出します。

『**歩きたくなる 暮らしたくなる 居心地の良い まちづくり**』を体現するために、古賀駅周辺の新たな魅力づくりの核となる都市公園を整備します。

公園の整備により、古賀市の中心市街地における公園不足を解消するとともに、「古賀駅」から「生涯学習ゾーン」へ**安全かつ快適に歩いてアクセスできる環境を構築**します。

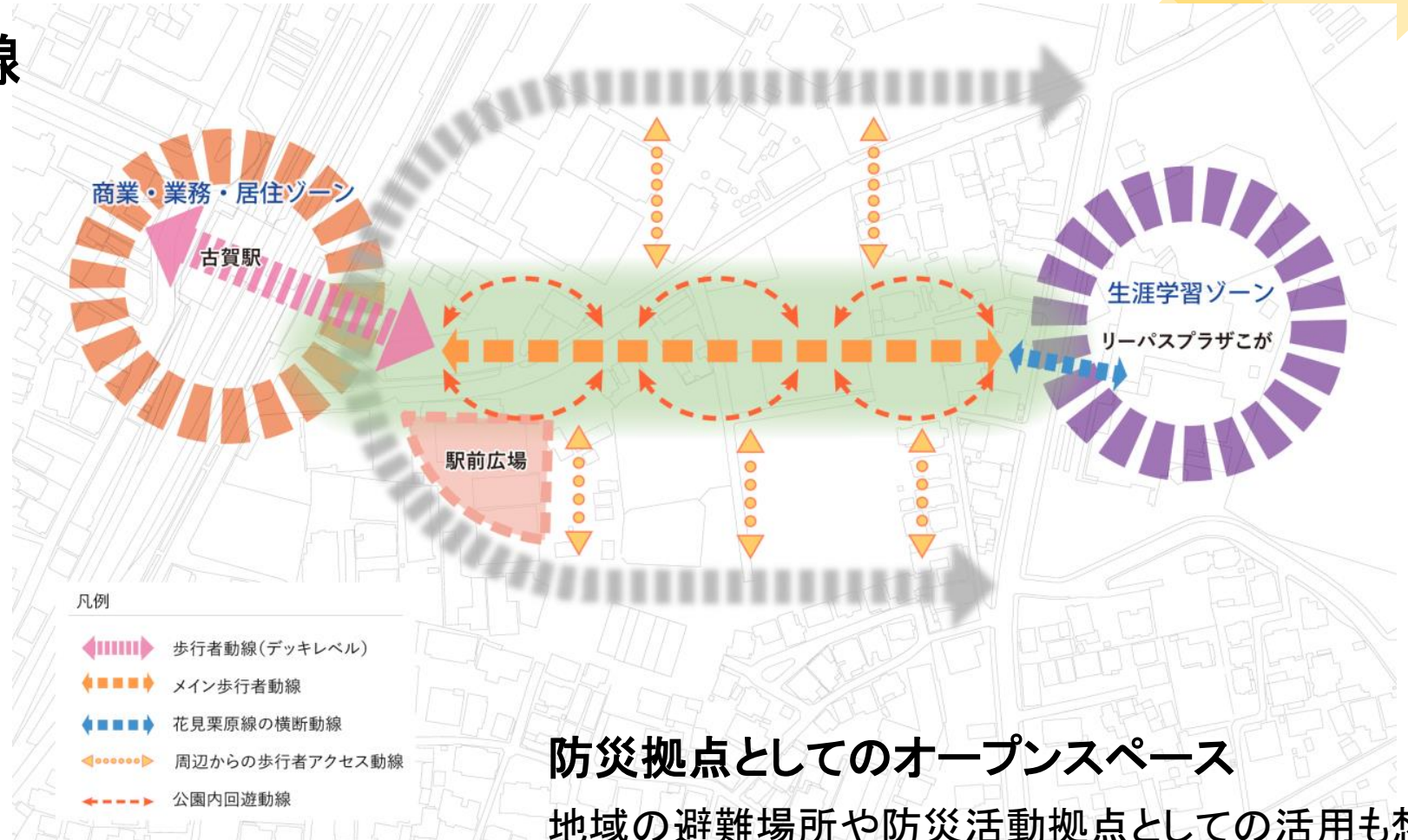
また、既存樹木を積極的に保存・活用し、自然を感じる憩いの公園づくりを推進します。



整備基本計画

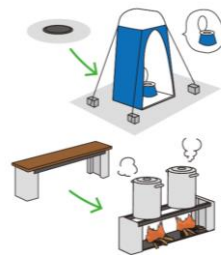
回遊性を高める歩行者動線

メインの歩行者動線は、駅から生涯学習ゾーンへと人々を導く接続性を与えます。また、隣接敷地からも公園にアクセスできる敷地内歩行者通路の設置を誘導します。あわせて公園と生涯学習ゾーンの間を横切る花見栗原線の円滑な渡り方を検討していきます。公園内の動線は機能配置と合わせ、「歩くこと」を誘発する動線計画とします。



防災拠点としてのオープンスペース

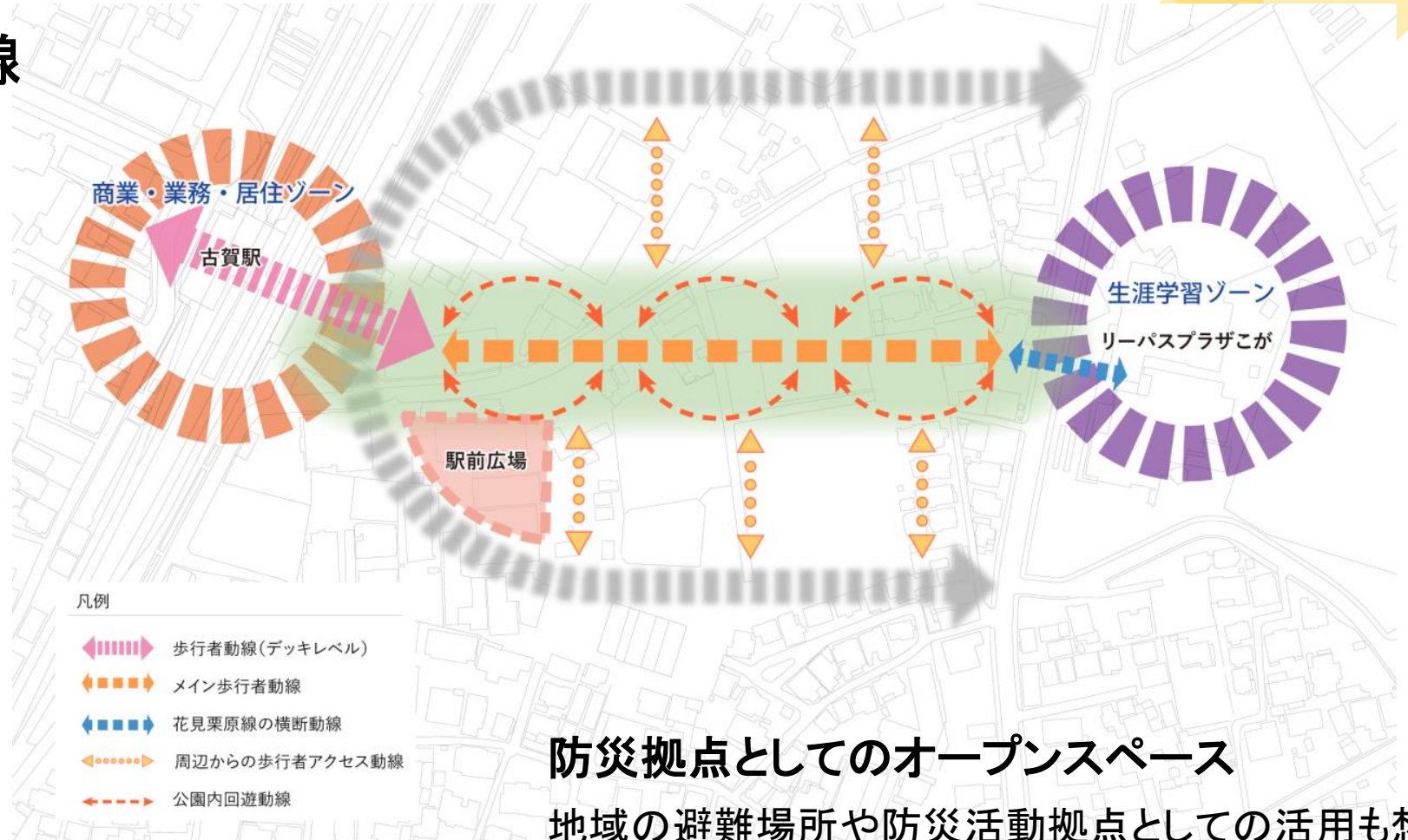
地域の避難場所や防災活動拠点としての活用も想定し、十分な広さを確保するとともに、マンホールトイレやかまどベンチなどの防災設備や、備蓄倉庫の設置などによる防災機能の強化を図る計画とします



整備基本計画

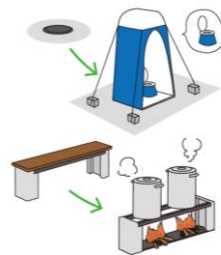
回遊性を高める歩行者動線

メインの歩行者動線は、駅から生涯学習ゾーンへと人々を導く接続性を与えます。また、隣接敷地からも公園にアクセスできる敷地内歩行者通路の設置を誘導します。あわせて公園と生涯学習ゾーンの間を横切る花見栗原線の円滑な渡り方を検討していきます。公園内の動線は機能配置と合わせ、「歩くこと」を誘発する動線計画とします。



防災拠点としてのオープンスペース

地域の避難場所や防災活動拠点としての活用も想定し、十分な広さを確保するとともに、マンホールトイレやかまどベンチなどの防災設備や、備蓄倉庫の設置などによる防災機能の強化を図る計画とします



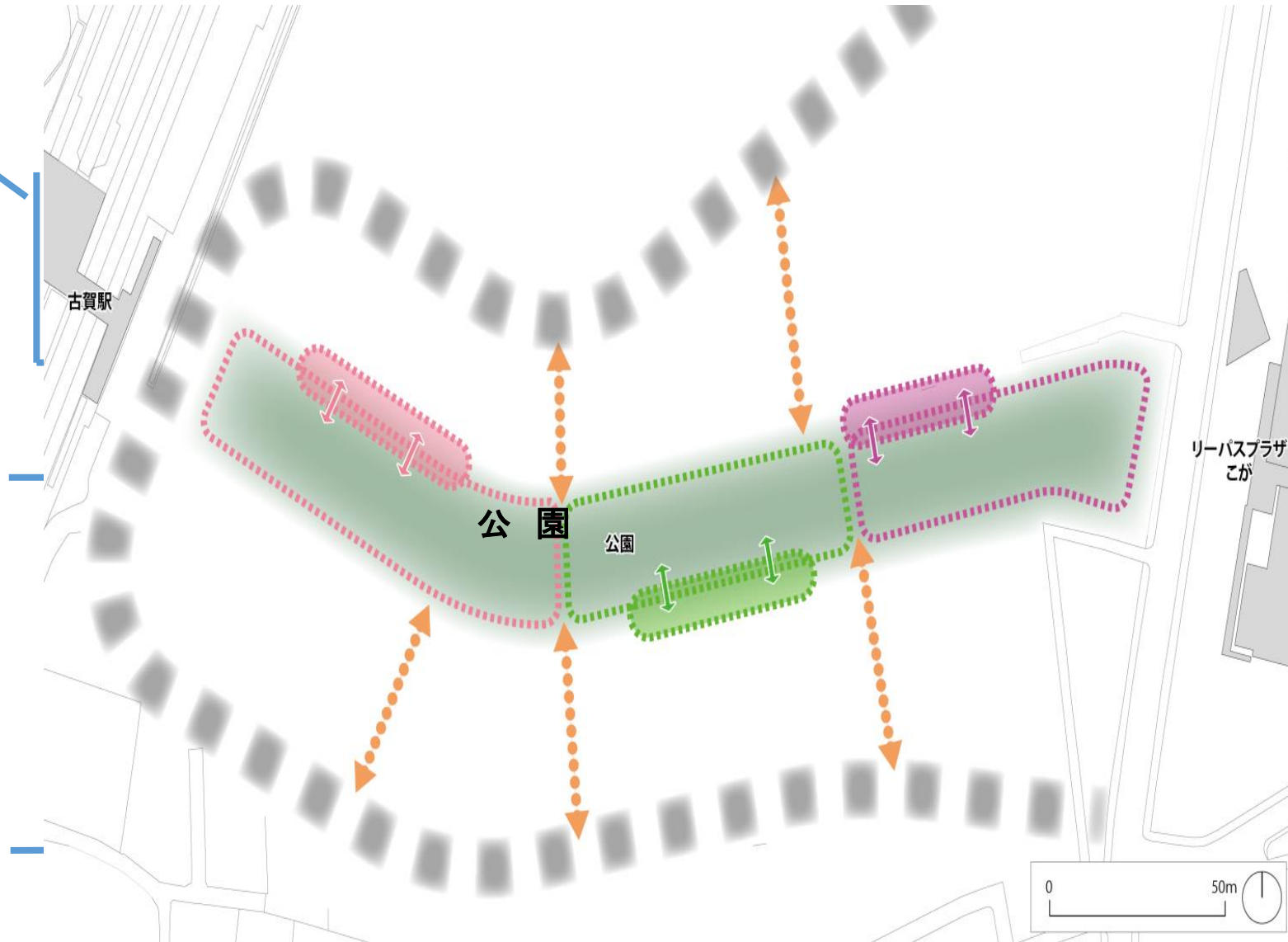
整備基本計画 公園

ゾーニングごとに機能や設えに変化を付けつつ、駅から生涯学習ゾーンまでを連続性のある公園空間でつなぎます。

隣接地の低層部や公園内に、ゾーニングに対応する施設や機能を配置し、一体的な空間形成を目指します。

駅から生涯学習ゾーンまでの東西方向だけでなく、隣接地から公園へアクセスするための南北方向の歩行者動線の設置を誘導します。

整理した公園の整備計画イメージ

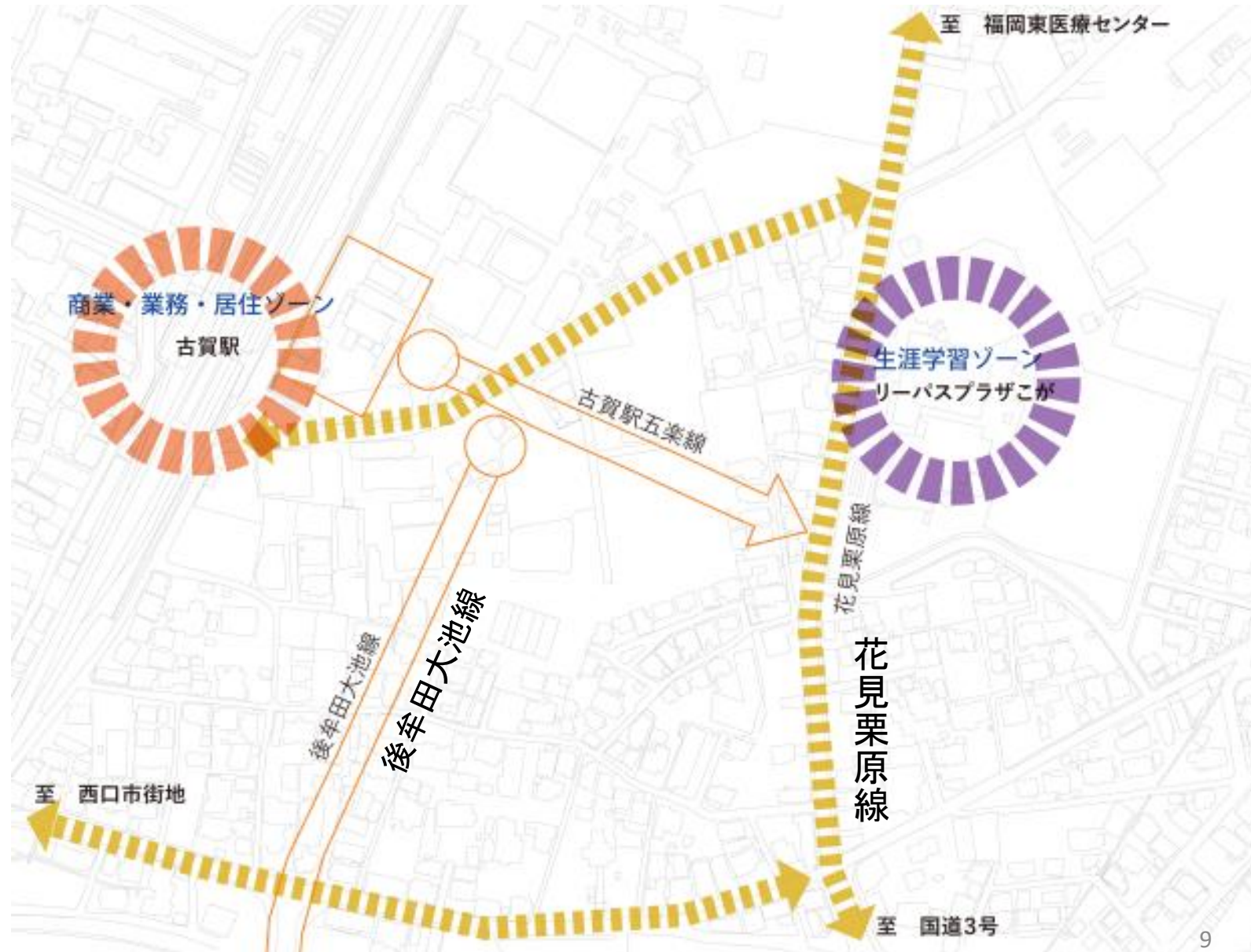


【規模】
公園の規模は日常的な憩いのための利用やイベント時の利用などが可能な規模とします。また、シンボル空間軸としての象徴性を持たせるために、将来的な維持管理を考慮しつつも一定程度のスペースを確保します。

【形状】
駅から生涯学習ゾーンへの視線のつながりを意識しつつ、ループ道路の線形と隣接地の奥行などを勘案し、隣接地が最大限有効活用できる形状とします。

整備基本計画 道路

JR古賀駅東口周辺地区の土地の有効活用を図っていくためには、安全で効率的な道路基盤の整備が不可欠です。シンボル空間軸のポテンシャルを最大限に活用していくために、ループ状道路を整備し、公園と宅地が一体となった空間づくりを進めます。また、整備の際には、既存道路との接続に配慮し、地域全体の交通ネットワークを強化します。



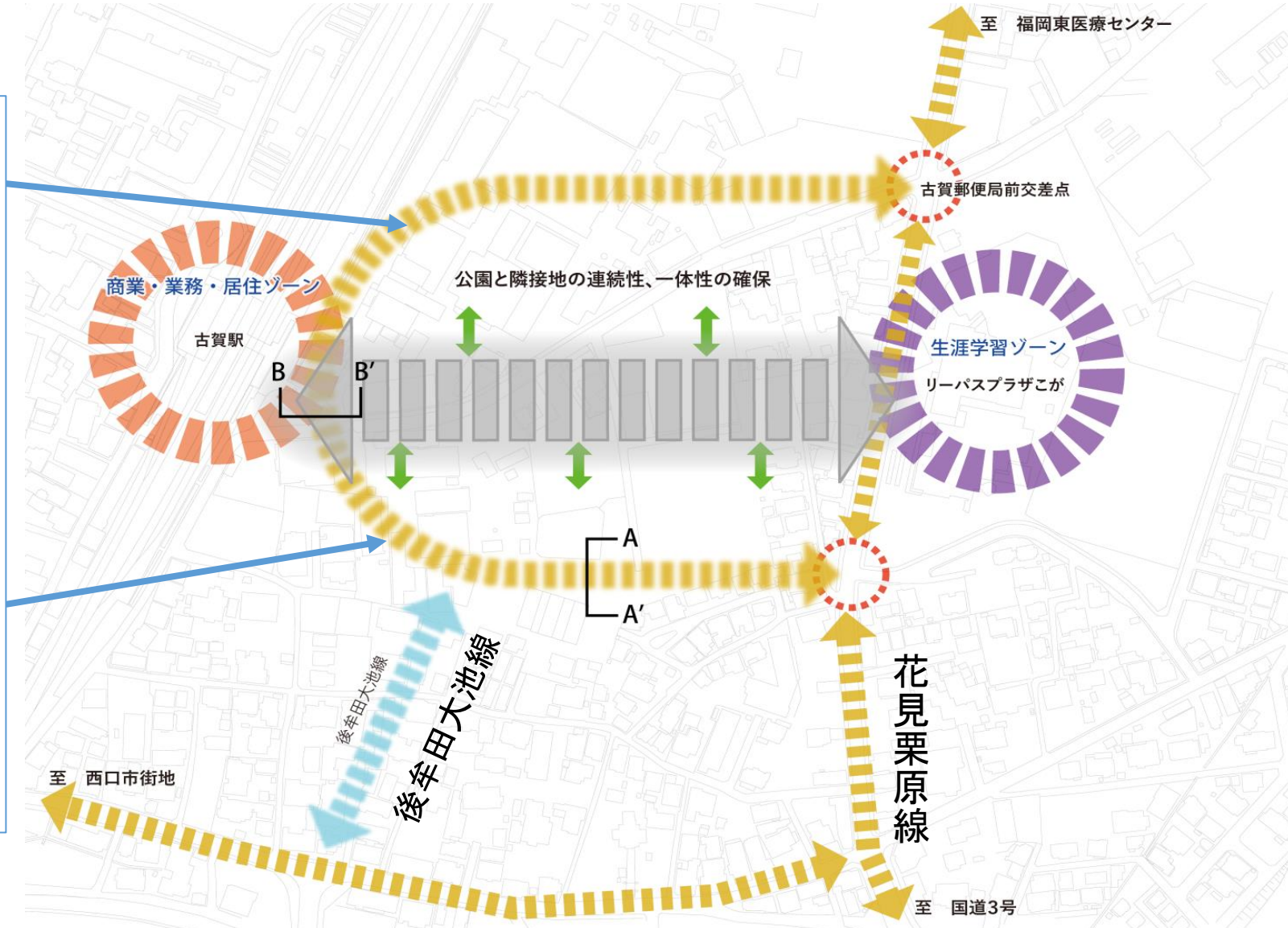
整備基本計画 道路

道路ネットワークの整備イメージ

公園を分断しない
ループ状道路

古賀駅五楽線(都市計画道路)の形状を変更し、道路が公園を分断せず、歩行者が隣接敷地から自動車動線と交錯せずに公園にアクセスできるように道路ネットワークを構築します。花見栗原線から古賀駅へのアクセスを2か所に分散することで交差点負荷の低減を図ります。整備にあたっては後牟田大池線との将来的な接続を想定します。

公園を分断しないループ状道路

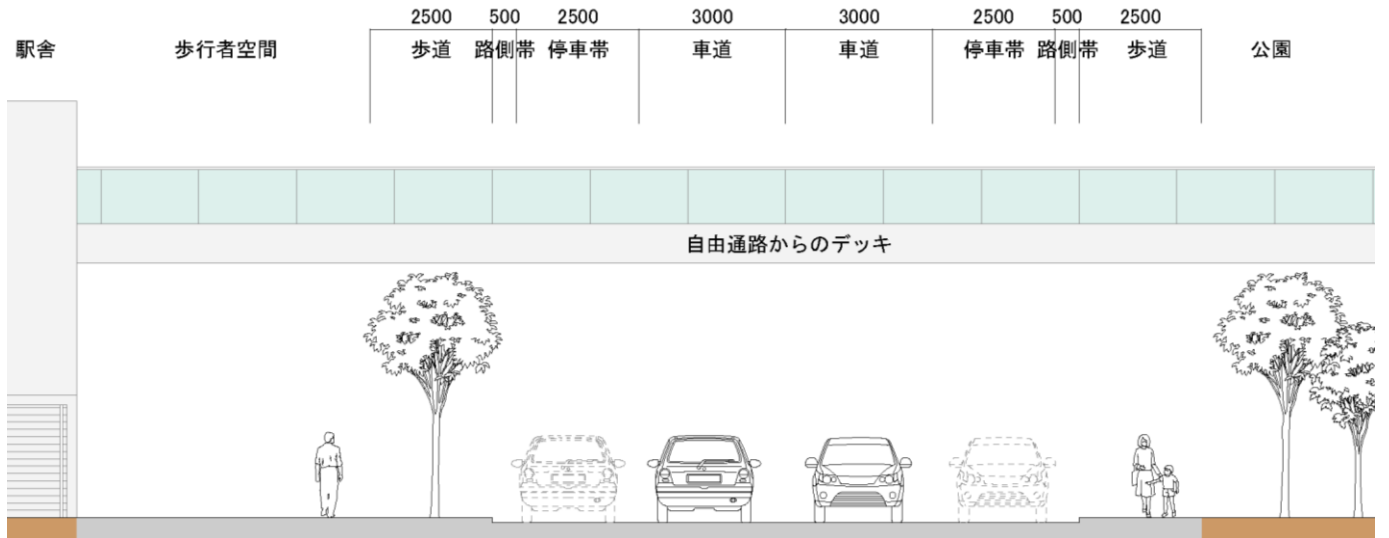
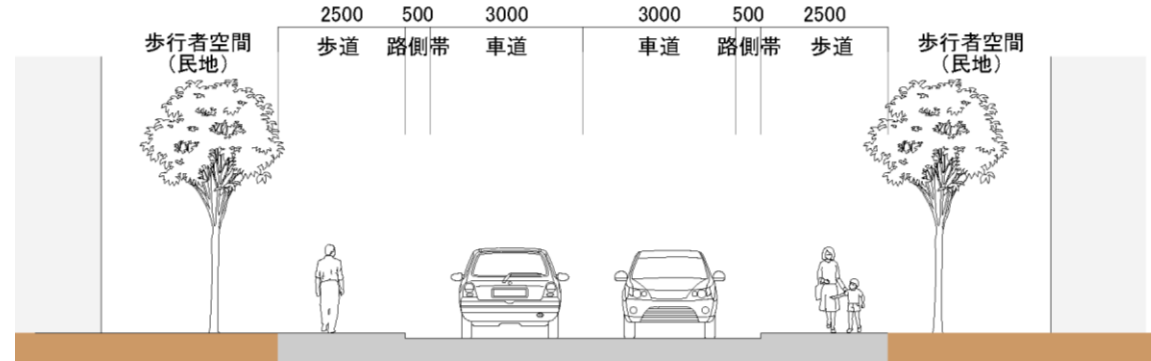


整備基本計画

安全性を考慮した断面構成

現状の自動車交通量を踏まえて、過度な道路整備とならないように、道路構造令基準における4種3級の道路として断面構成を設定します。

また、歩道と道路沿道の民地内空地を有効活用し、歩行者や自転車が安全に往来することができる計画とします。



交差点改良の検討

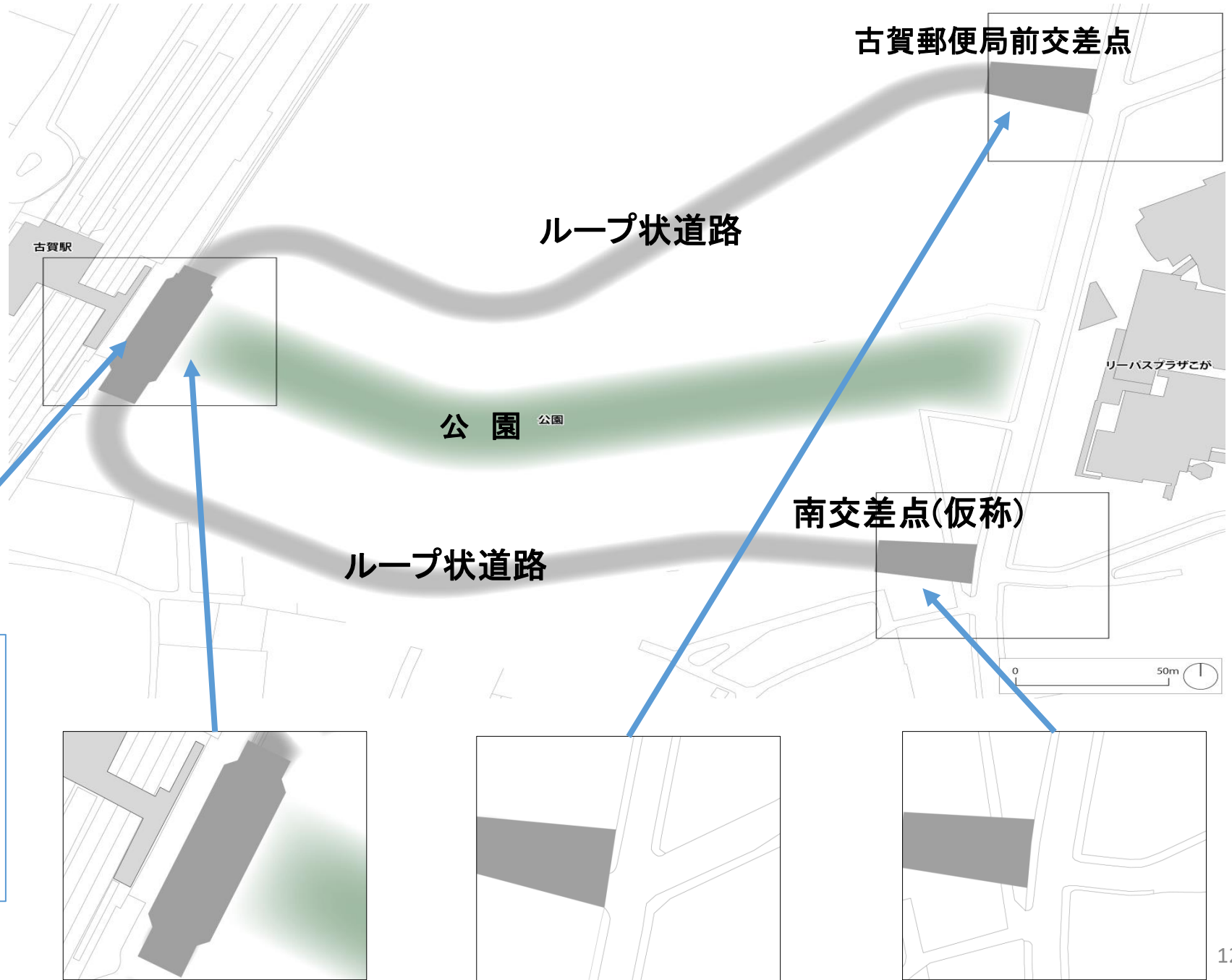
古賀駅へのアクセスが集中する**古賀郵便局前交差点**について、将来の発生交通量などを精査したうえで、歩行者の安全確保を目的とした、**歩車分離式信号の導入**や、交通渋滞の緩和を目的とした**右折レーンの新設**などについて検討します。

整備基本計画

道路の整備計画イメージ

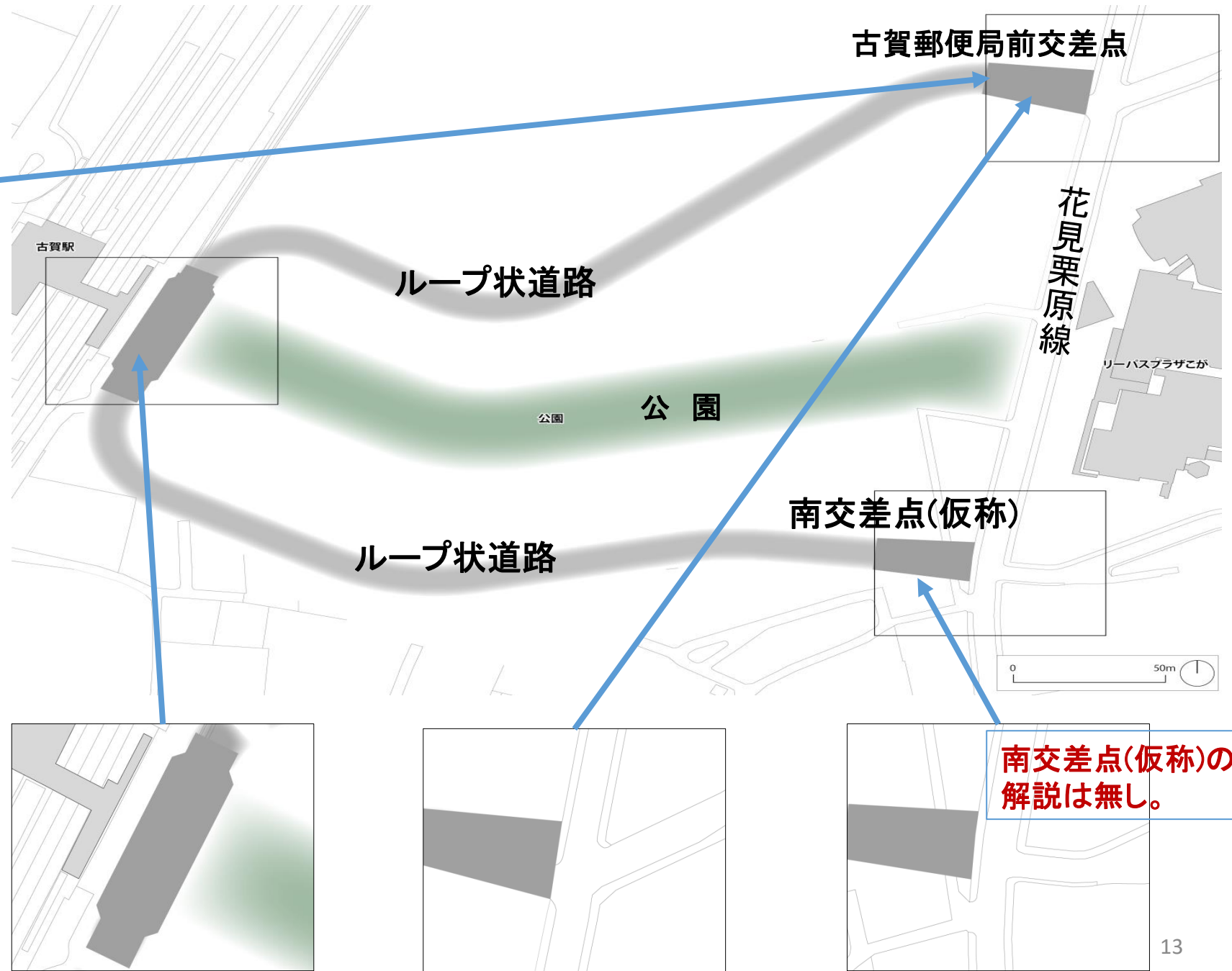
ループ状道路の線形を検討する上でのコントロールポイントとして、駅前面、郵便局前交差点、南交差点の3つが挙げられます。3点を結ぶ道路線形については隣接地との関係を整理したうえで今後詳細に検討していきます。

乗換等の利便性の向上や効率的な駅前空間の土地利用を図るため、駅前面は線路と並行する線形とします。また、キス&ライド用の停車帯を設けます。



道路の整備計画イメージ

花見栗原線(リーパスプラザ前の道路)との接続箇所は東側からの駅へのアクセスに対応できるように**既存の交差点と接続可能な箇所**とします。交差点は可能な限り花見栗原線との交差角が直角となるような線形とします。また、交通渋滞の緩和を目的とした**右折レーン**の**新設**などについて検討します。



JR古賀駅東口周辺地区は、西口周辺とあわせて、古賀市における「中心拠点」であり、一連の整備は、古賀市のこれからの100年の一翼を担う非常に重要なプロジェクトです。

『歩きたくなる 暮らしたくなる 居心地の良い まちづくり』を象徴する駅前空間を実現していくために、市民や来訪者を惹きつける空間デザイン、まちづくりのルール、マネジメント及び事業プログラムを重点的に検討していきます。

想定ロードマップ

JR古賀駅東口周辺地区における公共基盤整備の想定ロードマップ。

道路、駅前広場、公園については令和4年度(2022)の都市計画決定を目指します。その後、設計や関係者等との協議、工事を経て、令和8年度(2026)以降の供用開始を予定しています。

	2021 令和3年	2022 令和4年	2023 令和5年	2024 令和6年	2025 令和7年	2026 令和8年
道路	ガイドラインの作成	都市計画決定	設計・協議		整備工事	
駅前広場			設計・協議		整備工事	
公園			設計・協議		整備工事	
自由通路		設計・協議			整備工事	
駐輪場		設計・協議			整備工事	
市民活動		公共空間を活用した市民活動の醸成				

古賀駅東口 開発イメージ



公園内に設けたトイレ併設のカフェ（東京都豊島区）

民地側の店舗等と公園を一体的に利用（茨城県）